

受注企業動向調査結果

-2013. 4-

- 調査時点 平成25年3月調査（平成25年3月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 105社（回答率：70.0%）

<業種内訳>

一般機械器具	21社
金属	25社
プラスチック	8社
精密機器	11社
縫製	7社
鉄鋼・非鉄	8社
電気機器	17社
輸送用機器	8社
計 105社	

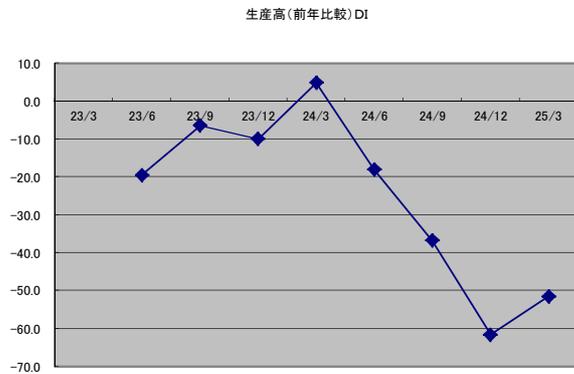
DI (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

生産高（対前年同月比）DI

景気回復の波、及ばず

【概況】

生産高DIは▲51.4となり、前回の▲61.5から10.1ポイント改善した。
自動車関連企業を中心とした輸出関連企業の業績回復を受け、今回DI値はわずかに改善したもの、景気回復の波は県内受注企業まで及んでいないのが現状である。



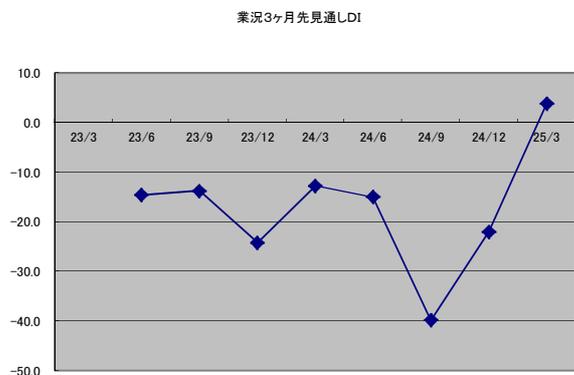
	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3
生産高(対前年同月比)DI	(未調査)	▲19.4	▲6.4	▲9.9	4.9	▲18.0	▲36.7	▲61.5	▲51.4

3ヶ月先見通しDI

過去2年間で初のプラス値

【概況】

業況3ヶ月先見通しDIは3.8となり、前回の▲22.0から25.8ポイントの改善となった。
円安によって自動車関連企業を中心に輸出関連企業の業績回復が見受けられたこともあり、見通しは好転している。
業況回復への期待の高さが窺われた一方で、原材料や燃料価格高騰による業績悪化を懸念する声も聞かれた。



	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3
業況3ヶ月先見通しDI	(未調査)	▲14.6	▲13.8	▲24.2	▲12.7	▲15.0	▲39.8	▲22.0	3.8

受注単価 D I

依然として先行きは不透明

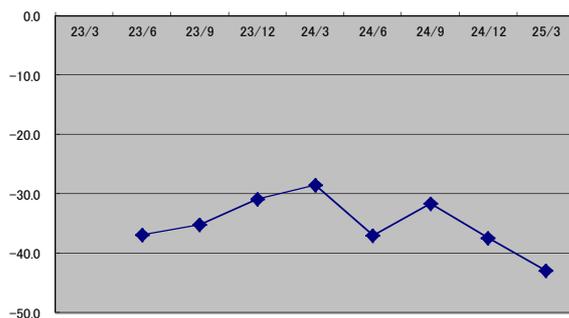
【概況】

受注単価 D I は▲42.9となり、前回の▲37.4から5.5ポイントの悪化となった。

受注単価はこの2年間、低調に推移しており、改善の兆しは見えない。

国内大手企業はもとより中小企業についてもグローバル化が加速しており、人件費の安い新興国との競争にさらされている。今後も受注単価は厳しい状況が続くと見られる。

受注単価DI



	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3
受注単価 DI		▲ 36.9	▲ 35.1	▲ 30.8	▲ 28.4	▲ 37.0	▲ 31.6	▲ 37.4	▲ 42.9

稼働状況 D I

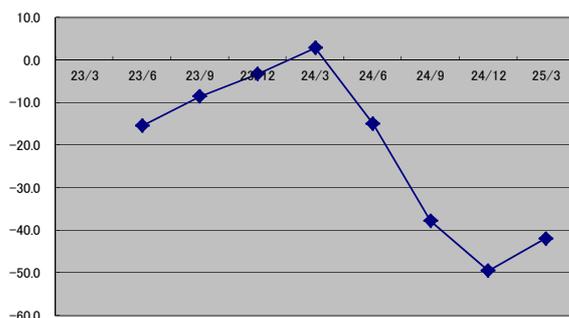
厳しい状況続く

【概況】

稼働状況 D I は▲41.9となり、前回の▲49.5から7.6ポイント改善した。

生産高増によりわずかに改善を見せたが、依然低水準から抜け出せない結果となった。

稼働状況 DI



	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3
稼働状況 DI	(未調査)	▲ 15.5	▲ 8.5	▲ 3.3	2.9	▲ 15.0	▲ 37.8	▲ 49.5	▲ 41.9

資金繰り D I

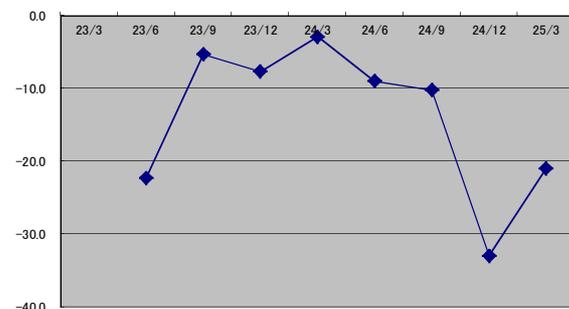
一部で改善の動き

【概況】

資金繰り D I は▲21.0となり、前回の▲33.0から12.0ポイントの改善となった。

景気回復にともない、一部でわずかに改善するも、業況回復を実感している県内受注企業は少なく、資金繰りもあまり好転していない。

資金繰りDI



	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3
資金繰り DI	(未調査)	▲ 22.3	▲ 5.3	▲ 7.7	▲ 2.9	▲ 9.0	▲ 10.2	▲ 33.0	▲ 21.0